

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290500061		
法人名	一般社団法人 のどか		
事業所名	グループホーム のどかの家 熱海		
所在地	静岡県熱海市泉415番地の169		
自己評価作成日	平成29年2月28日	評価結果市町村受理日	平成29年5月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・施設に入る前の暮らしや習慣や楽しみが1日でも多く、長く続けられるよう環境づくりに心掛けている。 ・勉強会の年間計画を立て毎月職員が2人1組となって担当し、質の向上に努めている。 ・2か月に1回の運営推進会議では近所の方の出席が多く日頃の運営にも協力的である。 ・地域の行事や活動に積極的に参加し、地域との交流を大切にしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JgyosyoCd=2290500061-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年	3月	31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者と職員は自分が入りたい施設を目指し、利用者の望むことや嫌なことの把握をし、日頃の声掛けや接し方等自分に置き換えて対応するようにしている。職員は全利用者の情報や状態を共有している。職員同士は仲が良くなるでも話せる環境の中、利用者や職員のいつもと違う変化に気づき、連携して対応することで利用者・職員は安心して過ごしている。山の中腹で自然に囲まれた施設であるが、協力してくれる地元の住民は運営推進会議へ参加していて、普段から事業所を理解しアドバイスをくれ、災害時の協力も得られている。毎回運営推進会議で日常的に起こりうるヒヤリ・ハットを事故に繋がらない大事なことから捉え、ヒヤリハット事例として状況・原因・対策を報告している。参加者から率直な意見や骨を強くする体操などのアドバイスを受け、サービス向上に繋げている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はいつでも確認出来るようリビングに掲げ共有している。「食事、排泄、入浴」は具現化したマニフェストがあり実践につなげている。	職員は利用者の個別の思いを把握して、共に優しさとおもひを感じられるように努めている。職員は自分が入りたい施設にしたいと自分の生活に置き換えて相手に接し、その人にあつた対応で理念の実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、また施設の行事等にも案内を配り、参加して頂いたり交流を図っている。二カ月に一度運営推進会議もあり、近所の方も参加して下さり利用者の状況を把握して日常的に交流を行っている。	協力してくれる近隣住民は施設への理解があり、運営推進会議に毎回参加してくれ、災害時の協力も得られる等交流がある。近くの他法人の特養での作品展に利用者の大型作品を出展したり、福祉ジュニアスクールの受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの職員による「認知症サポーター養成講座」を地域の小学生向けや他施設の職員・住民向けに実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回開催し、事故報告や研修報告、利用者様の日常の様子や行事等に参加された様子などスライドショーにしてまとめ報告を行っている。また、その場での意見をサービス向上に活動している。	行政・包括・地域住民・民生委員・家族・利用者など必要なメンバーを揃え2ヶ月に1度開催されている。毎回事業所の現況・行事・研修報告と2ヶ月間のヒヤリハット・事故報告をし参加者から意見やアドバイスを聞いている。議事録は明確に記録されていて家族にも配布されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いており、施設の状況を報告している。生活保護受託者の方へは毎月の手紙と新聞を届け、様子を伝えている。	行政や包括へ必要な書類や推進会議の案内等を届ける時は出向き、会話をするようにしている。包括職員は会議に参加の時や受け入れ相談がある時などコミュニケーションをとり、協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催して身体拘束について理解し、玄関の施錠を含め身体拘束・言葉の拘束についても行わないケアを実践している。一人で出掛けてしまう方については1階、2階の職員で連携して対応している。	不審者が侵入の報道の後、玄関は施錠するようにしているが、各フロア間や外にも開けて自由に入出入りをしている。1階と2階の職員は利用者の動きを察知し、寄り添い話を聞いたり一緒に外へ出る対応をしている。職員の声が強く聞こえたときは他の職員がさり気なく気づくよう声掛け、言葉による拘束をしないように努めている。	

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開き、高齢者虐待について理解を深めている。また、虐待防止マニュアルを施設内に設置し周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開催し、成年後見制度について理解を深めている。又、実際に成年後見人が付いているお客様を例に、実践的に理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、お客様やご家族の不満や疑問点を伺った上で、分かりやすく十分な説明を行い理解・納得を得た上で締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関口に意見箱を設置し、いつでも意見や要望を受けられる体制をとっている。又、二ヵ月に一回の運営推進会議で地域の方の意見・要望を伺い、運営に反映させている。	法人で「お客様満足度アンケート」を行い、結果を聞いている。「利用者・家族の希望・要望書」に利用者・家族から聞いたことを記入し、職員は確認印を押して共有している。利用者は「食事の好み」や「量が多い」等が多く、家族からは「保湿クリームをつけて」等個人的なことが多いが即対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議や定期的に行われるフロア会議にて、職員の意見や提案を管理者に伝える機会がある。	職員の年齢は幅が広く職員同士、お互いに声を掛け合い連携して介護に当たっている。食事介助に時間がかかる利用者の為に時間を調整してシフトの変更をしたり、不穏になってしまう人におやつを別のフロアでなど職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価・成果評価の二つの人事考課を設け、管理者や職員個々の努力や実績勤務状況を把握し、能力給に反映する等、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修、二年目研修、若手研修、ベテラン研修、管理職研修等、管理者や職員一人ひとりのキャリアに合わせた研修を行っている。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、協会主催の研修等に参加している。又、地域の事業所連絡会やケア会議にも参加し、情報交換等を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、管理者や計画作成担当者が本人と面談をし、本人が困っている事や不安なこと、要望等伺いながら、本人が安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、管理者や計画作成担当者が本人と面談をし、本人が困っている事や不安なこと、要望等伺いできる限りお応えできるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前情報を確認し、必要時は、本人か家族に確認をとりながら、本人の希望や必要とする支援を見極め、お一人ひとりにあったサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、洗濯物畳や、食器拭き等、本人が無理なく役割を持って頂けるよう心掛け共同生活を意識した支援、関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月、手紙にてご本人の様子を伝えたり、情報を共有することで共に本人を支えているという意識作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族の面会や外出はいつでもできるような体制をとっており、馴染みの場所に行きたいとの希望があればできる限り対応出来る環境をつくっており友人や家族とで出掛ける利用者もある。	元職場の上司や友人が来た時一緒に写真を撮って、次の訪問に繋がるような声掛けをしている。入居してから外に出かけたがらなかった人がニュースを見て「新しくなった熱海駅が観たい」と聞き、出かけている。その際以前の周辺の様子や初島で働いていたことなどを引き出している。	

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で利用者同士で家事を行ったり外出したり、団欒の場所で談笑されたり、共同作品を作る機会を提供し、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、入所中に撮った写真をお渡ししている。特に必要が無ければ、こちらからの取り組みはないが、本人、家族からの相談があれば対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や様子の変化にも気を配り、アセスメントのみではなくその方の希望や思い、意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。困難な方には話し方や表情を観察し、ミーティング等で何を求めているのかを検討している。	1対1になれる入浴時にフロアでは聞けないようなことも話してくれ、思いや暮らし方の希望等聞いている。日常のその人の生活パターンは把握しているが、言葉で伝えにくい人の表情を観察し、いつもと違う顔や身体の動きを察知した時は居室で話を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族と面会し生活面や馴染みの暮らし方、生活環境の情報を得るようにしている。今までのサービス利用については、担当ケアマネからの情報提供等を確認し把握している。入居後も分からない事があればその都度相談している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりに担当の職員がついており、カンファレンスで状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に希望、要望を伺い必要時には主治医や看護師の意見を聞いて担当者会議で共有し本人や家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。	更新時にアセスメントを作り変え、家族から意向を聞いてケアマネが原案を作成、担当者会議を開き居室担当者や利用者の意見を聞いて「元気でいたい」本人の思いに必要なことを話し合い計画書を作成している。家族には面会時に確認をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日誌、申送りにて日々の様子、状況の変化についても共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診とは別に受診したい、毎月歩きたい等、本人の「○○したい」に柔軟に応えられるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や活動に参加し地域の方との関わりを持っている。又二カ月に一回の運営推進会議に地域の方へ出席して頂き、日頃の様子を写真などで紹介している。(スライドなどで)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の全員往診の他、個別往診も有り、医師が訪問いつでも相談できる環境にある。皮膚科も必要に応じて対応している。緊急時にはオンコール対応により指示を仰いでいる。毎月の往診、受診報告を家族の手紙と一緒に送っている。	入居時に説明し、全員協力医で月2回の往診を受けている。定期受信以外でも状態の変化があれば看護師との連携で往診に来ていて、訪問歯科もあり適切な医療が受けられている。他科受診も職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を週一回配置し、健康管理を行っている。看護記録にて介護職員との情報の共有を行い、急な体調悪化が起きた際も看護師に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	着替えの交換等面会に行き本人の状態の把握に努め安心して治療できるよう支援している。又退院後の生活について相談等行い施設に戻られても安心して生活ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について施設の方針を説明し同意を得ている。状態の変化に応じて主治医より本人、家族への説明を行った上で職員や関係者で終末期に向けた方針を決め取り組んでいる。	入居時に説明し聞くと、家族は「施設で最期」を希望するが多く、同意書ももらっている。食事が取れなくなった時医師の診断を受け、家族の意向を再確認して家族の協力を得ながら看取り支援を行っている。今年度、食欲が落ち受診後、癌や他の病気が解り、家族の希望で看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを常備しており、いつでも確認できる。防災訓練や勉強会を通しスキルアップを図り個々で学習している。又救急延命講習に参加しフィードバックをしている。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所の方にも防災訓練に参加していただいたり、地域の訓練にも参加している。年二回の防災訓練を実施している。	火災を想定した訓練は日中・夜間を想定して行っていて、備蓄も水・食料・薬・ランタン・毛布など揃えてあり、夏の虫除け対応やヘルメットの整備もある。居室の入り口に車椅子・自立・介助付き足歩行・歩行器などの絵によるトリアージあり、地域の住民の協力は受けられるようになっている。	火災想定以外の訓練だけでなく、地震や風水害、土砂崩れなどの訓練を実施し、利用者を避難させる取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から利用者をお客様と捉え友達口調、上からの口調にならない様に気を付けている。また、オムツ交換時やトイレの際はドアを閉めるなどしている。	利用者の人格を尊重し、声掛けは「・・・さん」と苗字で丁寧な言葉で対応し、大きな声で「トイレに行きましょう」は言わず誘ってから小声で言うようにしている。入れ歯を洗うのを人前では嫌がる人に隅の洗面所に誘うなどその人の思いを尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望、意思表示等が出来るよう問い掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常会話や様子から一人ひとりのペースを把握し、居室やリビングで過ごしたい方、散歩に行きたい方等、個々のペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二カ月に一回訪問美容室を利用しカラーリング、カットを行われる。外出の時や、行事の際は、特におしゃれが出来るよう好みの服を選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いや禁食を把握している。嚥下の悪い方や歯のない方にはお粥や刻み職を提供している。年一回お寿司屋さんが訪問し目の前で握ってくれている。	食事前に歌を唄ったり、バタカラ体操をし嚥下機能を上げ、食べられるようにしている。献立つきの食材が届き、職員が調理して3食共提供して利用者の出来る人が配膳等手伝っている。嫌いな物は別の物を出すなど個別に合わせた対応で支援している。ホットプレートでおやつを作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は一日1200cc以上を目安にしコップの大きさを統一して管理しやすいようにしている。水分量が足りない方には声掛けや、その方の飲みやすい飲み物で補給して頂いている。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は自分で歯磨きを行っており、磨き残しのあるかたや介助の必要な方は職員が行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、時間の間隔を開けない事で、排泄の失敗やおむつの使用を減らしている。夜間おむつの方も日中はトイレ誘導をし、トイレで排泄できるよう支援している。	夜間オムツ使用で3時間毎交換する人や自室でPTイレの人もいるが、日中は排泄チェック表を見て誘導しトイレでの排泄をしている。入所前立位が保てなかった人が、週2回の訪問マッサージや車椅子から椅子への移乗や立つ座を繰り返し筋力が付いてトイレでの排泄が出来るようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に野菜ジュースや牛乳を飲んで頂き腸の動きを良くしたり、腹部マッサージを行う等、個々に応じた呼ぶに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりが入りたいと思う時間を聞き遅い時間でも可能な限り対応している。またシャンプーや入浴剤など好みのものを使用することも可能。	夜の入浴希望に遅番と夜勤者が重なる時間で叶えている。施設での生活に慣れるまで「家ではいるからいい」と長期で拒否していた人も、無理強ひすることなく待ち、根気よく支援することで入浴をするようになっていく。羞恥心に配慮し気持ちよく入浴してもらえよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動し、夜ぐっすり眠れるよう支援している。食後や体操の後、横にないたい方は居室で休んで頂くよう適度に昼寝の時間を取り入れている。また夜眠れない方には温かい飲み物等を飲んで頂く工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の説明書をファイリングし、薬の目的や副作用、用法や用量について把握している。また、薬の事故防止の為、配薬・服薬時には職員二名にて確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中で、散歩が習慣だった方には散歩、外食をしていた方には外食の機会、字や絵を描く事が好きな方は行事等その方が張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援している。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩では、天気の良い日には少し遠くまでドライブや歩き、風景を楽しんだり自然を感じている。また、家族や友人と一緒に出掛けたりする場合もある。本人の希望に沿った支援をしている。	天候を見て自然豊かな施設周辺を散歩している。普段の会話から行きたい所を聞き、交代で聞いた場所へ行けるように支援している。友人が定期的に来て外食に行く人や家族と出かける人などがいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の管理能力を考え可能な方は所持して頂き買い物に出かけた際、本人に支払いして頂いている。本人が普段所持していない場合でも買い物に出かけた際、支払いの時に本人にお金を渡し支払いをして頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話や手紙の取り次ぎはいつでも行っている。本人自ら希望があればいつでも可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれている為、窓からの採光も眺めも良く、外を見て季節を感じて頂ける。リビングはテレビやソファを置きゆったりくつろげる空間となっている。トイレ、風呂場は利用者が分かりやすいよう文字を書いてあり、毎日掃除を行い清潔に心掛けている。	感染症対策で温湿度に気を配り、清潔で感染症の人は出ていない。消臭剤を使用し臭いもなく、整理整頓がされている。職員は利用者の様子を見て席位置を決め居心地良く過ごせるように配慮している。手作り日めくりカレンダーや利用者の大作の作品が壁に飾られ暖かな明るい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	男性、女性両方の座席や気の合う方向の座席の配慮等工夫している。また、一階二階はいつでも気軽に行き来できる。独りで過ごしたい方はソファで過ごされたり、お話したい方はテーブルで過ごされたりする場合もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使いたれた馴染みの物を持ち込んで頂き、安心して暮らして頂けるよう心掛けている。また、家族との写真を飾られている方や好きなお花や切り抜きを飾られている方、誕生日カードや行事で貰ったものを置き、本人が心地よく過ごせる様工夫している。	夜間1人の時尻餅を付いたヒヤリの検討をし事故に繋がらないようベッドの周りにマットや滑り止めのゴム製の敷物を敷いて転倒防止に気を配り、車椅子の動線に配慮している。壁に利用者の作品や写真を飾って、職員は皆で話し合い暖かな居心地のよい居室になるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは車椅子の方でも分かるよう低く位置に表示している。また、居室内での行動を制限しない為に方が一転んでも大事に至らないよう床にクッション性のあつマットを敷いたりタンスの角にはガードするのをつけたり工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290500061		
法人名	一般社団法人 のどか		
事業所名	グループホーム のどかの家 熱海		
所在地	静岡県熱海市泉415番地の169		
自己評価作成日	平成29年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=2290500061-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成29年 3月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・施設に入る前の暮らしや習慣や楽しみが1日でも多く、長く続けられるよう環境づくりに心掛けている。 ・勉強会の年間計画を立て毎月職員が2人1組となって担当し、質の向上に努めている。 ・2か月に1回の運営推進会議では近所の方の出席が多く日頃の運営にも協力的である。 ・地域の行事や活動に積極的に参加し、地域との交流を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はいつでも確認出来るようリビングに掲げ共有している。「食事、排泄、入浴」は具現化したマニフェストがあり実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、また施設の行事等にも案内を配り、参加して頂いたり交流を図っている。二カ月に一度運営推進会議もあり、近所の方も参加して下さり利用者の状況を把握して日常的に交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの職員による「認知症サポーター養成講座」を地域の小学生向けや他施設の職員・住民向けに実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回開催し、事故報告や研修報告、利用者様の日常の様子や行事等に参加された様子などスライドショーにしてまとめ報告を行っている。また、その場での意見をサービス向上に活動している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いており、施設の状況を報告している。生活保護受託者の方へは毎月の手紙と新聞を届け、様子を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催して身体拘束について理解し、玄関の施錠を含め身体拘束・言葉の拘束についても行わないケアを実践している。一人で出掛けてしまう方については1階、2階の職員で連携して対応している。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開き、高齢者虐待について理解を深めている。また、虐待防止マニュアルを施設内に設置し周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開催し、成年後見制度について理解を深めている。又、実際に成年後見人が付いているお客様を例に、実践的に理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、お客様やご家族の不満や疑問点を伺った上で、分かりやすく十分な説明を行い理解・納得を得た上で締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関口に意見箱を設置し、いつでも意見や要望を受けられる体制をとっている。又、二カ月に一回の運営推進会議で地域の方の意見・要望を伺い、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議や定期的に行われるフロア会議にて、職員の意見や提案を管理者に伝える機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価・成果評価の二つの人事考課を設け、管理者や職員個々の努力や実績勤務状況を把握し、能力給に反映する等、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修、二年目研修、若手研修、ベテラン研修、管理職研修等、管理者や職員一人ひとりのキャリアに合わせた研修を行っている。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、協会主催の研修等に参加している。又、地域の事業所連絡会やケア会議にも参加し、情報交換等を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、管理者や計画作成担当者が本人と面談をし、本人が困っている事や不安なこと、要望等伺いながら、本人が安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、管理者や計画作成担当者が本人と面談をし、本人が困っている事や不安なこと、要望等伺いできる限りお応えできるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前情報を確認し、必要時は、本人か家族に確認をとりながら、本人の希望や必要とする支援を見極め、お一人ひとりにあったサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、洗濯物置や、食器拭き等、本人が無理なく役割を持って頂けるよう心掛け共同生活を意識した支援、関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月、手紙にてご本人の様子を伝えたり、情報を共有することで共に本人を支えているという意識作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族の面会や外出はいつでもできるような体制をとっており、馴染みの場所に行きたいとの希望があればできる限り対応出来る環境をつくっており友人や家族とで出掛ける利用者もある。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で利用者同士で家事を行ったり外出したり、団欒の場所で談笑されたり、共同作品を作る機会を提供し、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、入所中に撮った写真をお渡ししている。特に必要が無ければ、こちらからの取り組みはないが、本人、家族からの相談あれば対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や様子の変化にも気を配り、アセスメントのみではなくその方の希望や思い、意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。困難な方には話し方や表情を観察し、ミーティング等で何を求めているのかを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族と面会し生活面や馴染みの暮らし方、生活環境の情報を得ようとしている。今までのサービス利用については、担当ケアマネからの情報提供等を確認し把握している。入居後も分からない事があればその都度相談している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりに担当の職員がついており、カンファレンスで状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に希望、要望を伺い必要時には主治医や看護師の意見を聞いて担当者会議で共有し本人や家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日誌、送りにて日々の様子、状況の変化についても共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診とは別に受診したい、毎月歩きたい等、本人の「○○したい」に柔軟に応えられるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や活動に参加し地域の方との関わりを持っている。又二カ月に一回の運営推進会議に地域の方へ出席して頂き、日頃の様子を写真などで紹介している。(スライドなどで)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の全員往診の他、個別往診も有り、医師が訪問いつでも相談できる環境にある。皮膚科も必要に応じて対応している。緊急時にはオンコール対応により指示を仰いでいる。毎月の往診、受診報告を家族の手紙と一緒に送っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を週一回配置し、健康管理を行っている。看護記録にて介護職員との情報の共有を行い、急な体調悪化が起きた際も看護師に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	着替えの交換等面会に行き本人の状態の把握に努め安心して治療できるよう支援している。又退院後の生活について相談等行い施設に戻られても安心して生活ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について施設の方針を説明し同意を得ている。状態の変化に応じて主治医より本人、家族への説明を行った上で職員や関係者で終末期に向けた方針を決め取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを常備しており、いつでも確認できる。防災訓練や勉強会を通しスキルアップを図り個々で学習している。又救急延命講習に参加しフィードバックをしている。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所の方にも防災訓練に参加していただいたり、地域の訓練にも参加している。年二回の防災訓練を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から利用者をお客様と捉え友達口調、上からの口調にならない様に気を付けている。また、オムツ交換時やトイレの際はドアを閉めるなどしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望、意思表示等が出来るよう問い掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常会話や様子から一人ひとりのペースを把握し、居室やリビングで過ごしたい方、散歩に行きたい方等、個々のペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二カ月に一回訪問美容室を利用しカラーリング、カットを行われる。外出の時や、行事の際は、特におしゃれが出来るよう好みの服を選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いや禁食を把握している。嚥下の悪い方や歯のない方にはお粥や刻み職を提供している。年一回お寿司屋さんが訪問し目の前で握ってくれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は一日1200cc以上を目安にしコップの大きさを統一して管理しやすいようにしている。水分量が足りない方には声掛けや、その方の飲みやすい飲み物で補給して頂いている。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は自分で歯磨きを行っており、磨き残しのあるかたや介助の必要な方は職員が行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、時間の間隔を開けない事で、排泄の失敗やおむつの使用を減らしている。夜間おむつの方も日中はトイレ誘導をし、トイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に野菜ジュースや牛乳を飲んで頂き腸の動きを良くしたり、腹部マッサージを行う等、個々に応じた呼ぶに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりが入りたいと思う時間を聞き遅い時間でも可能な限り対応している。またシャンプーや入浴剤など好みのものを使用することも可能。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動し、夜ぐっすり眠れるよう支援している。食後や体操の後、横にないたい方は居室で休んで頂くよう適度に昼寝の時間を取り入れている。また夜眠れない方には温かい飲み物等を飲んで頂く工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の説明書をファイリングし、薬の目的や副作用、用法や用量について把握している。また、薬の事故防止の為、配薬・服薬時には職員二名にて確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中で、散歩が習慣だった方には散歩、外食をしていた方には外食の機会、字や絵を描く事が好きな方は行事等その方が張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援している。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩では、天気の良い日には少し遠くまでドライブや歩き、風景を楽しんだり自然を感じている。また、家族や友人と一緒に出掛けたりする場合もある。本人の希望に沿った支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の管理能力を考え可能な方は所持して頂き買い物に出かけた際、本人に支払いして頂いている。本人が普段所持していない場合でも買い物に出かけた際、支払いの時に本人にお金を渡し支払いをして頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話や手紙の取り次ぎはいつでも行っている。本人自ら希望があればいつでも可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれている為、窓からの採光も眺めも良く、外を見て季節を感じて頂ける。リビングはテレビやソファを置きゆったりくつろげる空間となっている。トイレ、風呂場は利用者が分かりやすいよう文字を書き添えてあり、毎日掃除を行い清潔に心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	男性、女性同士の座席や気の合う方同士の座席の配慮等工夫している。また、一階二階はいつでも気軽に行き来できる。独りで過ごしたい方はソファで過ごされたり、お話したい方はテーブルで過ごされたりする場合もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使いなれた馴染みの物を持ち込んで頂き、安心して暮らして頂けるよう心掛けている。また、家族との写真を飾られている方や好きなお花や切り抜きを飾られている方、誕生日カードや行事で貰ったものを置き、本人が心地よく過ごせる様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは車椅子の方でも分かるよう低く位置に表示している。また、居室内での行動を制限しない為に方が一転んでも大事に至らないよう床にクッション性のあつマットを敷いたりタンスの角にはガードするのをつけたり工夫している。		